令和7年度

品川区こども会議

実施報告書

品川区　子ども未来部　子ども育成課

目次

Ⅰ．品川区こども会議の概要 1
品川区こども会議について 1
開催状況 1
Ⅱ．品川区こども会議の内容 2
第１回（７月 30 日） 2
第２回（８月６日） 2
第３回（８月 20 日） 3
報告会（９月１日） 3
Ⅲ．意見のまとめ 4
【Ａグループ】こどもの意見を言いやすい環境づくり 4
【Ｂグループ】だれも孤独にしない、させないための取り組み 9
【Ｃグループ】こどもの居場所や体験活動の機会の充実 16
報告会で区長へ手渡しした意見書 31
報告会の発表内容 34
Ⅳ．参加者アンケート 37

Ⅰ．品川区こども会議の概要

品川区こども会議について

品川区では、令和７年４月、子ども・若者、子育て家庭に関する施策に一元的に取り組み、すべてのこどもが健やかに成長でき、子育て家庭が安心して子育てできる社会の実現と、すべての区民が未来に希望を持ち、幸せに暮らすことができるウェルビーイングの実現を目指し、二本の計画（「品川区子ども・子育て事業計画」「品川区子ども・若者計画」）を一本化した「品川区こども計画」を策定しました。

品川区こども会議は、「品川区こども計画」に掲げられている取組の方向性のひとつである「こどもの意見表明・参画の促進」の取組のひとつであり、こどもの多様な意見を聴き、その声を区政に反映させるための意見やアイデアを集めることを目的としています。

「品川区こども計画」策定後、初めて開催されたこども会議では、令和６年度に実施した「品川区こども計画の策定に向けた区民意識調査」のうち、中学生（品川区在住の中学校・義務教育学校（後期課程）に通学する 1,000 人を対象）と若者（品川区在住の高校生世代から 39 歳の若者 2,000 人を対象）の回答や、令和７年６月に実施した「品川区子ども・若者アンケート」（困難な状況にあるこどもを対象）の回答も参考にしながら、品川区こども計画の内容に沿った３つのテーマについて意見交換を行い、自分たちにできることや区・地域・学校への提案を意見書としてまとめました。その集大成として、区長への意見書手渡しを行う最終報告会を実施しました。

こども会議のテーマ

「こどもの意見を言いやすい環境づくり」

「だれも孤独にしない、させないための取り組み」

「こどもの居場所や体験活動の機会の充実」

開催状況

（１）開催日時・場所・各回の参加人数

	開催日時	参加人数	場所
第１回	令和７年７月 30 日（水）13 時 30 分から 15 時 30 分	15 人	品川区 中小企業センター
第２回	令和７年８月 ６日（水）13 時 30 分から 15 時 30 分	16 人	
第３回	令和７年８月 20 日（水）13 時 30 分から 16 時 30 分	16 人	
報告会	令和７年９月 １日（月）18 時 00 分から 18 時 30 分	14 人	品川区役所

Ⅱ．品川区こども会議の内容

第１回（７月 30 日）

13：30	開会
	・こども会議の趣旨説明
	・全３回の流れ、今回の活動内容を説明
13：40	アイスブレイク
	・グループで自己紹介をする（名前、学年、好きな〇〇）
13：55	現在の課題について考える
	・各ファシリテーターからテーマに沿ったアンケート結果を説明する
	・ファシリテーターの説明（アンケート結果）から気づいたことや感想を付箋に書く
	・テーマについて、自分が思うことや感じていることを考える
14：15	休憩
14：25	自分の意見をグループ内で共有する
	・アンケートの感想を順番に示した後に、テーマへの考えを示す
	・発表したら、付箋を模造紙に貼り付ける
15：00	発表準備
15：10	全体発表
15：25	閉会

第２回（８月６日）

13：30	開会
	・今回の活動内容を説明
13：35	前回の振り返り
13：45	必要なことを考える
	・各グループテーマを実現するために、必要なことはなにか考えて付箋に書く
	・「こういうことができるといい」「なにが必要か」などの視点で考える
13：55	自分の意見をグループ内で共有する
14：15	必要なことをグループで３つ程度選ぶ
	・次の活動を意識して、みんなが考えやすいものを選ぶ
14：20	休憩
14：30	プロジェクトのアイデアを考える
	・「アイデアシート」を使用して必要なことに対応するプロジェクトのアイデアを考える
14：45	自分の考えたアイデアをグループ内で共有する
15：05	プロジェクトのアイデアをグループで３つ選ぶ
15：15	発表
15：25	閉会

第３回（８月 20 日）

13：30	開会 ・今回の活動内容を説明
13：35	プロジェクトを実現するために（プロジェクト名・概要を考える） ・プロジェクト名と概要を具体的にする ・アイデアをグループで話し合い、イメージを固める。グループで固まったイメージを付箋に書き留める
14：05	プロジェクトを実現するために（できること・してほしいことを考える） ・自分たちにできること、区・学校・地域にしてほしいことの視点で考える
14：20	できること・してほしいことをグループ内で発表する
14：30	休憩
14：40	意見書を作成するための役割分担を決める ・「付箋内容を、模造紙に書き出す係」と「表紙とプロジェクトタイトルを作る係」
14：45	意見書の作成 発表準備
15：45	休憩
15：55	全体発表
16：15	シール投票 ・発表を聞いて「いいね」と思ったプロジェクトに丸シールを貼る
16：20	閉会・写真撮影

報告会（９月１日）

18：00	開会 ・報告会の流れを説明
18：05	グループごとに、意見書を読み上げる 意見書を区長へ手渡しする
18：20	区長からのコメント
18：25	閉会・写真撮影

Ⅲ．意見のまとめ

こどもたちの意見は付箋や模造紙に手書きで記入されており、その写真は最後に掲載しています。ここではそれらの意見を整理してまとめています。（文章は一部修正して掲載）

【Ａグループ】こどもの意見を言いやすい環境づくり

＜話し合いの出発点となったアンケート結果＞

・自分の意見を言えていると感じている子どもは、中学生では約８割（10 人のうち８人）困難な状況にあるこどもでは６割程度（10 人のうち６人）となっている

・中学生では約４割（10 人のうち４人）、困難な状況にあるこどもでは約６割（10 人のうち６人）が「子どもの意見の尊重」という権利を知らない

・品川区に自分の意見を言う機会として「意見交換できるイベント」を選択した割合をみると、中学生と比べて困難な状況にあるこどもは、約５倍高い結果となっている。困難な状況にあるこどもは、対面でのコミュニケーションを重視する傾向がみられる

（第１回）アンケート結果をみて思ったこと

＜子どもの意見の尊重＞

・困難な状況にある子どもに、自分の意見が尊重されるべきということなどが伝わっていない

・「子どもの権利条約」を学校の授業などで取り上げて知る機会を増やした方が良い

・困難な状況にある子どもに意見が尊重されるべきであることや支援があることを伝える

＜意見を言う機会＞

・対面の方が人と人とのあたたかさを感じるのではないか

・もっと意見を言える場所を増やした方が良いと思った

・困難な状況にある子どもは言いたいことがあるけれど意見を言えていない

・先入観をなくして「今」のその人の意見を聞くようにする

・匿名で書いたら「だれだれだからダメ！！」とかがなくなるかも

・中学生になって、小学生の時よりも大人や他の生徒と意見交流できる機会が増えた

＜否定されないこと＞

・困難な子どもは自分の意見を言ってハブられたりするかもしれない

⇒自分の意見を否定されない場所を増やすことが必要だと思う

・困難な状況にある子どもはすでに追い込まれてしまっているから、否定されるのが怖くて意見が言えてないのでは

・自分の意見を言っても否定されない環境が少ない

・学級会で「意見を言わない人は言わなくてもいい」と言われていた。強く言われると、かえって意見が言えなくなってしまうのではないか

・間違えたことを言ったときに強く否定されて意見を言わなくなった。「ちがいまーす！！」と大声で言ったり、大人数で笑うなど

（第１回）テーマについて思うこと・感じること

・居場所の定義は？

・第三者を入れて加害者と話す（第三者に伝達役をしてもらう）加害者と対面して話すのはキツイ

・頼れる第三者がいると良い。中立の人の方がいいかも

・区が何をやっているのか知らないから、何をしてもらえるのか分からない

・意見を言う先（区など）が何をしているのか知る機会

・普段の会話では意見が出ているのに、あらたまると言いづらい

・学級会などは少しあらたまってしまい、言いたいこと言えなかったりするから、目安箱のような気軽に言える場をつくるといい

（第２回）テーマを実現するために必要なことは？

≪知識を得る機会≫

・子どもが「子どもの権利条約」を知る機会
・意見を言う先（区など）が何をしているのかを知る機会

≪認知度 UP！≫

・カウンセラーの存在が知られていないかもしれないから、掲示板にチラシを貼ると、気軽に利用できると思う
・カウンセラーの人をあまり知らないと思うから、学校の手紙に紹介動画（バラエティ的なおもしろいもの）を載せると、気軽に利用できると思う
・意見する先の認知度
・ダイヤルの手紙とかはすぐに捨ててしまう
・QR コードを大きく載せるなど、インパクトがある手紙がいい
・固い・意見しづらいイメージをなくす
・５分でもいいから全員が利用できるようにする
・品川区か各学校に目安箱を設置する
・目安箱はいじめに関連するイメージがある
〈品川区に対しては〉目安箱などの品川区民が意見を言う場があることを知らなかったので、もっと知られるように何かする
〈学校に対しては〉目安箱のイメージを払拭できるようにする or 目安箱以外のものを作る（学校をよりよくするための意見）

≪意見を言う機会≫

・子どもの気持ちに寄り添ってくれる先生がいると安心して相談できる気がする
・協力してくれる第三者的な人が学校などにいてほしい。もしくはそういった相談や解決をしてくれるサイトを作ってほしい
・誰でも気軽に行ける意見を交換できるイベントを作ってほしい
・年齢や性別関係なくみんなで意見が言える場所をつくる
・年上の人と交流ができると自分の意見が伝わりやすい気がする
・もっと意見を言える場所を増やすことが必要

（第２回）みんなで選んだプロジェクトアイデア

≪知識を得る機会≫

・区が、高校生や受験した人を対象に、固くない雰囲気のイベントやまつりの場で伝える
・区か団体が、品川区の学校に通っている人に楽しい雰囲気で授業をする
・権利条約などのことを学校で知る機会をつくる
・イベントなど気軽な場で楽しみながら知識を得る
・気軽に知識を得られる講義を行う
・品川区の職員の方々に来ていただいて、品川区はどんな活動をしているのか出前授業をしてもらう

≪認知度 UP！≫

・カウンセラーの方々の自己紹介動画を作成して、その後各クラスで交流会をする
・区で配られたりするチラシ・手紙に QR コードで読み取るとカウンセラーの紹介動画を見れるようにする

≪意見を言う機会≫

・ゆるく話せる会をつくる
・利用者が多い施設を使ってイベントを開催する

（第３回）提案プロジェクト

①「知って作ろう！　子ども条例プロジェクト」	
【内容】 ・学校でオンラインで知識を得て、分からなかった部分を質問する →グループワークで子ども条例をつくり、クラスでまとめ、学校単位で意見書を作成して、区へ提出する	
自分たちにできること	・学習意欲をもつ
品川区にしてほしいこと	・子どもの権利条例を子どもの意見をふまえてつくってもらう!!
地域や学校にしてほしいこと	・出前授業を各学校にしてもらいたい

②「学校発信　令和版　目安箱プロジェクト」	
【内容】 オンラインでアンケートを作ってもらう →定期的に学校で時間をとって回答してもらう →いつでも回答できるようにする	
自分たちにできること	・アンケートを積極的に行い、自分の意見を書く
品川区にしてほしいこと	・アンケートの作成
地域や学校にしてほしいこと	・アンケートを実施する時間をしっかり作ってもらいたい

③「身近な場所で意見を出そう！　プロジェクト」	
【内容】 ・児童センターやスマイルスクールなどの、子どもが行きやすく、頼れる大人がいる所で、子どもが意見を言える機会を設ける ・児童センターに目安箱を設置する →デコって、目立つようにする	
自分たちにできること	・積極的にイベントに参加する ・目安箱を映えるようにデコる
品川区にしてほしいこと	・イベントの開催 ・イベントの宣伝
地域や学校にしてほしいこと	・会場に頼れる大人がついていてほしい ・イベントの宣伝

【Ｂグループ】だれも孤独にしない、させないための取り組み

＜話し合いの出発点となったアンケート結果＞

・困難な状況にあるこどもは、家族や担任の先生よりも、スクールカウンセラーや相談機関などの大人を、気軽に話せる相手として挙げることが多い。また、誰にも相談できないと感じているこどもも、中学生と比較すると多い

・友達への悩みの相談について、中学生では８割（10 人のうち８人）が「相談できると思う」と感じている。一方、困難な状況にあるこどもは半数未満（10 人のうち５人）となっている

・ストレスを感じなかった人ほど、友達に悩みを相談することができると思っている（ストレスを感じている人ほど、友達に悩みを相談できないと思っている。）

（第１回）アンケート結果をみて思ったこと

・困難な状況にあるこどもはスクールカウンセラーなどの専門の人に相談したいと分かった

・友達に悩みを相談できないのは意外

・困難な状況にあるこどもは相談できる人がいないと、耐えてしまう人がもう少し多いと思っていた

・相談できると思わないと回答した生徒の理由が気になる

＜困難な状況にあるこどもが相談しにくい理由＞

・困難な状況にあると友達と話す機会が少ないから信頼ができないのかも。他にも悩みが重いから話せないのかもしれない

・困難な状況にあるこどもはカウンセラーなどに話しやすい

⇒学校に行ったりするのが少ない（人と関わりにくい）から、専門家の方が話しやすいのかも

・困難な状況にあるこどもが誰もいないと回答する理由に、どうせ理解してもらえないなどの諦めの気持ちもあると思う

・困難な状況にあるこどもの悩みはとても重いから、誰かに話しにくいのかもしれない

・困難な状況にいる人は、学校に行っていないかもしれないから、先生には話しづらいんだと思う

・困難な状況にあるこどもたちは、「相談するのが怖い」「勇気が出ない」というのが関係している気がする

・困難な状況にあるこどもは相談する時間もないから誰もいないという人が多いんだと思った

＜お父さん、お母さん＞

・保護者でも母親の方が相談しやすいというのは大体の人の共通認識なのだと思った

・大体の場合、お父さんの方が忙しい

⇒母のが一緒にいて話しやすいと思う

・困難な状況にあるこどものお父さんとかお母さんとかは、帰ってくる時間が遅くて話す時間がないから、スクールカウンセラーに相談する人が多いんだと思う

＜ストレスに関すること＞

・ストレスを感じる

⇒悩みが大きかったり大変

⇒友達には話せない、私も話せないかもしれない

・ストレスを全く感じていない人は、相談しようとあまり思っていないから「相談できる」と答えている人が多いのだと思う

・ストレスを感じている人は友達との関係についても悩みを抱えていて、相談しづらいんだと思う

（第１回）テーマについて思うこと・感じること

＜相談できる対象＞

・信頼できる人・話を聞いてくれる人・励ましてくれる人。これが私の思う相談できる人だと思う

・人によっては相談できることとできないことがある

・誰にも相談できない人は一人で悩んでしまうから対策が必要かも

・親や友達、先生などの周りの人が異変を感じとり、気遣う一言を言ってあげると良いのでは

・お母さんに話しやすいのは、気軽に話せて話を聞いてくれるから

＜孤独＞

・孤独は人に決められるものではなく、自分で決めるものだと思う

・小学生はスマホを持っていない人が多い（まもるっちがある）から、相談の窓口が電話だと、相談するときに困りそう

・長期休み中、だれとも遊べなくて孤独

＜友達への相談＞

・１人でいることが好きな人もいるから、友達がいないからと言って無理に友達を作らせるのはなんか違うと思う

・友達になら相談できそう

・友達には相談できないかもしれない

・友達は立場が同じで共にふざけあえるため、相談しやすいと思う

＜学校のカウンセラー＞

・学校には悩みを相談するカウンセラー室があるが、入りにくい雰囲気があって使っているところを見たことがない

・月１くらいでカウンセラーが来て、相談できる日がある

・カウンセラールームに入りづらい

＜先生に相談できるか＞

・先生は、若くてやさしい人だから話しやすい

・担任の先生とあまり会う機会がないため相談しない

・担任の先生には相談できないが、他の先生だったら信頼できて話せると思う

（第２回）テーマを実現するために必要なことは？

＜友達と仲良く＞

・友達と仲良くする
・「こんなことされたらイヤだよ」というのが書いてある紙を教室に貼る
・授業中のグループワークを増やす

＜カウンセラー＞

・カウンセリングルームを使いやすくするために日頃から関われるような時間をつくる
・カウンセラー室のことを、小学校に入った段階で詳しく説明する
・カウンセラーの人たちに、若くて話しやすい人を派遣する
・カウンセラールームに入りやすくするために工夫する
・スクールカウンセラー室を遊べる所にして、今日は〇〇番～××番までの人みたいに遊ぶ日を決めて、相談したい人はするようにすれば、相談しやすいと思う

＜タブレットやまもるっちなどの相談窓口＞

・まもるっちにも入れる
・カウンセラーに対して、iPad を通じて間接的に悩みを相談できると良い。対面して悩みを話すのはハードルが高く、カウンセリング室に入らずに気楽に悩みを相談できるようにする
・タブレットや iPad で、相談できる窓口があるといいかも

＜学校での人との関わり＞

・夏休みも含めて月 1 ぐらいでみんなで話したり遊んだりできる時間をとる
・ペア活動、グループ活動など定期的に学年で協力して行う行事をする
・部活や委員会、クラブなどに入ることを進めることで居場所をつくる。他にも地域の活動や学校のイベントへの参加を進める

＜フリースペースや誰でも使える場所＞

・誰でも遊べる場所を増やす
・静かなフリースペースを作り、過ごしやすくする

＜その他＞

・学校でアンケートを定期的に行う

（第２回）みんなで選んだプロジェクトアイデア

≪カウンセラーと仲良くする・相談しやすくする、カウンセラー室に入りやすくするための活動≫

・悩みを持っている子どもたちがカウンセラー室に入れるような雰囲気をつくるために、カウンセラー自身も、話しやすい雰囲気をつくる

・カウンセリングルームを使いやすくするために、カウンセリングの先生と休み時間に一緒に遊ぶ。部活動に参加するなどして日頃から関わる時間をつくる

・人目がありすぎる場所にあり、まったく使われていないから、人目があまりない所の方がいい

・新入生が入学したとき、カウンセラーの体験を少人数のグループでやったり、しっかりとした説明を受けて、使いやすくする

・学校のカウンセラー室を、少人数で遊べる部屋にして、相談したい人はする

≪タブレットでのカウンセラーとの通信≫

・支給される iPad で、子ども間でのやり取りや生先に相談などができるアプリを入れられるようにする

・タブレットでカウンセラーと通信をつないで、タブレットでカウンセラーの予約がとれるようにする

・学校の生徒が学校で配布される iPad を使って、カウンセラーに悩みを相談する

利点：あまり接点のないカウンセラーの人にも気軽に話せる

カウンセリング室に入る所を見られたくないという恥ずかしさを感じない。iPad を使うと他人に知られにくくて安心する

≪学校にフリースペースをつくる≫

・学校の普段使わない教室を使って、放課後や長期休みなど子どもがいつでも行ける場所をつくる

・学校に無料で遊べる所があるといいと思う

・学校の生徒が、昼休みに使える落ちつけるスペースを設ける。誰でも入りやすく、ドアをつくらなくて外からでもみえるスペースにする

・学校に休み時間や放課後利用できるような静かなフリースペースをつくる。夏休みも遊べるようにする

（第３回）提案プロジェクト

①「安心できるカウンセリングルーム プロジェクト」	
【内容】 ・カウンセラーたちが、年に１回くらいで説明会行い、理解を深める。月に１回 ほど、全員がカウンセラーに相談する日をつくる ・入りやすくなるように、カウンセリングルームで遊べるようにする	
自分たちにできること	・勇気を出して相談 ・カウンセラーの仕事を理解する ・カウンセラーと仲良くしてみる
品川区にしてほしいこと	・話しやすい人を派遣してほしい ・学童のとなりか、同じ階に部屋をつくる
地域や学校にしてほしいこと	・説明会などをしてほしい ・相談ポストをつくってほしい ・月に１回くらい、全員相談できる日がほしい

②「デジタルで〇〇を解決しよう」	
【内容】 ・支給されたタブレットを活用し、友達や学校の先生、カウンセラーなどとやり取り・相談できるアプリを開発・導入する	
自分たちにできること	・ルールを守って使用する ・みんなで話し合い、使用する中で、もとからあるルールを臨機応変に対処する
品川区にしてほしいこと	・友達や学校、カウンセラーの先生とやりとりできるアプリの開発
地域や学校にしてほしいこと	・タブレットへのアプリの導入 ・学校全体でしっかりとしたルールを決める。説明する ・低学年はトラブルが起きやすいので、高学年からの使用にする ・アプリのダウンロードや使用できる時間帯などある程度制限をかける

③「だれでも行ける！　スクールーム」	
【内容】 ・長期休み中や、休み時間、放課後などの時間に遊べたり、勉強ができたりするフリースペースを学校につくる	
自分たちにできること	・フリースペースを積極的に活用する ・自分たちで話し合ってルールをつくる
品川区にしてほしいこと	・フリースペースをみんなに知ってもらうための紹介用紙をつくってほしい
地域や学校にしてほしいこと	・フリースペースに見守る先生がいてほしい ・定期的に生徒にフリースペースについてのアンケートをとってほしい

【Ｃグループ】こどもの居場所や体験活動の機会の充実

＜話し合いの出発点となったアンケート結果＞

・中学生の３人に１人は、「放課後（夕方）に過ごしたい場所がない」と感じている
・地区ごとに「放課後や休日に過ごしたいと思える場所がある」と答えた割合に差がある
・中学生の約６割、若者の約８割（中学生 10 人のうち６人、若者の 10 人のうち８人）が、学校以外の地域行事と活動に参加していない

（第１回）アンケート結果をみて思ったこと

＜居場所がある人がけっこう少ないこと＞

・思ったより居場所がない人が多い
・中学生の３人に 1 人が居場所がないっていうのは、多いと感じた。その理由が知りたい。塾とかで余裕がなかったりするのかも？
・居場所がない子が思ったよりもいて、学校で居場所がなくなったときに大変
・地域のお祭りに参加しているから、３人に１人が居場所がないことに驚いた

＜地区によって居場所があると答えた人が違うこと＞

・東大井地区と荏原地区ではなんの違いがあるんだろう？
・なんで地区ごとで割合が違うのだろう？
・地区によって広さが異なるからそれに伴って割合が違う？地区にいる子ども人数が違うから？
・地域によって「家と学校以外に過ごしたい場所がない」と答える人数が違うのはなんで？

＜地域行事に参加している・していないこと＞

・地域行事に参加していないのは自分の興味がそそられるものがないから？　⇒もっと種類を増やす
・地域行事に参加していないのは金額が高いから？
・お金がかかることが関係している？

（第１回）テーマについて思うこと・感じること

＜居場所とは？＞

・居場所の定義は？
・過ごしやすい場所（塾）など
・家みたいな、気をつかわなくて好きなことができる所
・本当の自分を出せる所
・自分らしくいられる所
・やりたいことができる所

＜場所＞

・遊園地を近くに作ってほしい
・でかくておもしろい公園がほしい
・遊ぶ環境で公園とか児童センター
・もっと家の近くで遊べるところがほしい
・遊ぶ場所を増やしてほしい
・新たに商業施設を作らなくても、すでにあるところの一画にあったらもっと良い
・ワイワイ遊べる場所はあるけど、静かに勉強できる場所がほしい
・あまり仲良くない人と知り合える居場所がほしい
・ボーリング場とかを増やしてほしい
・小学生の頃の友達と遊べる機会を作ってくれるとうれしい
・自転車を停める所が遊ぶ所にないと困る

＜体験＞

・留学とかしたいけど高いからそれっぽいことが体験できる機会がほしい
・公園（大きいところ）に小さい施設を作って体験＆遊べるというところがほしい
・コロナ前にあったＰＴＡのお祭りがなくなって悲しい。復活してほしい
・同じことが好きな人同士でつながれる機会がほしい

＜知る＞

・地域の活動について知る機会を増やした方が良いかも
・もっと周知の方法を考える
・友達の家が遠いと遊ぶ場所が分かりにくい
・遊ぶ場所を知る機会があまりない

＜お金＞

・無料で遊べる室内が欲しい

・お金がないとできないことが多い（もの作りなど）

・お金がかからない体験がほしい

・「エコルとごし」は過ごしていて楽しいしお金がかからないから、そういう施設をもっと作ったら良いと思う

＜雰囲気＞

・1 人でも行きやすい雰囲気にする

・児童センターは一部の人が占領していることがある

・高校生だと児童センターに入りづらい

＜その他＞

・お客様アンケートみたいに子どもにもそういう場がほしい

・もっと子ども達の意見が気軽に言える場がほしい

（第２回）テーマを実現するために必要なことは？

≪場所≫

＜学年問わず遊ぶ＞

・学年関係なく遊びまわれる（学校帰りでも）
・学年問わず遊べる場所
・無料で入れる勉強を教え合える場所

＜似た者同士で集まる＞

・同じものが好きな人同士で集まれるところ
・同じ趣味の子どもと話せる場
・同じものが好きな人同士でかかわれる機会や場所がほしい

＜何かに特化した場所＞

・放課後や休日にゲームや勉強などやりたいことに特化した場（無料～格安）
・みんなでワイワイするというより、みんなや一人で静かに勉強ができて、教えてくれる職員がいるところがほしい

＜子どもの意見＞

・子どもも意見を言える場所がいい
・子どもだけでいられる
・みんなが欲しいと思っている施設をアンケートで聞いてみる

＜居やすい場所＞

・気軽に入れるところ＆一人でも行ける場所
・過ごしやすい場所
・一人で遊びに行って、行った先で色々な人と関わりたい
・児童センターよりアットホームな雰囲気の施設がほしい
・相談できる場所
・何でも、いつでも来れて、何でも相談できる場所
・本当の自分を出せるところ

≪体験≫

・他学年との交流
・英語の勉強ができるようにネイティブな人と話せる所や機会がほしい。TGG（江東区にある体験型英語学習施設）にもっと行きたい

≪SNS≫

＜掲示板＞

・子ども同士が話し合える掲示板（インターネット）SNS 子ども版
・子どもだけしか入れないネットの掲示板とか
・ネッ友を作ったり、SNS と関わる練習として、品川区の子どもと自由に話せるチャットアプリがほしい（学校の iPad からアクセスしたい）

＜広告＞

・広告などを増やす
・YouTube の CM に体験活動について載せる

≪場所と SNS の共通≫

＜お金＞

・お金がかからず、気軽に入れる所

（第２回）みんなで選んだプロジェクトアイデア

≪場所≫

・児童センターよりもアットホームなおばあちゃん家のようなみんなの居場所

≪体験≫

・初対面の子ども同士が協力して一つの社会課題に取り組める。区の施設で、ワクワクする雰囲気がいい
・他学年と集まりミッションなどをやっていく体験
・大きいイベントホールに小・中・高の人たちが集まって、知らない人たちでペアを作って、そのペアで他のペアと競って、ミッション（なぞとき、たから探し）をクリアする

≪SNS≫

・SNS やメールなどで、広告をもっと流行らせて、体験活動をやる
・SNS に慣れたりチャットをする練習として、学校のタブレットからアクセスできる、品川区の子どもたちと無料でつながれるアプリがほしい
・楽しく心安らぐ雰囲気がいい
・同じ学校の友達だけでなく、ほかの学校の人や他学年と繋がれるように、掲示板を学校のタブレットやパソコンのアプリに入れてほしい

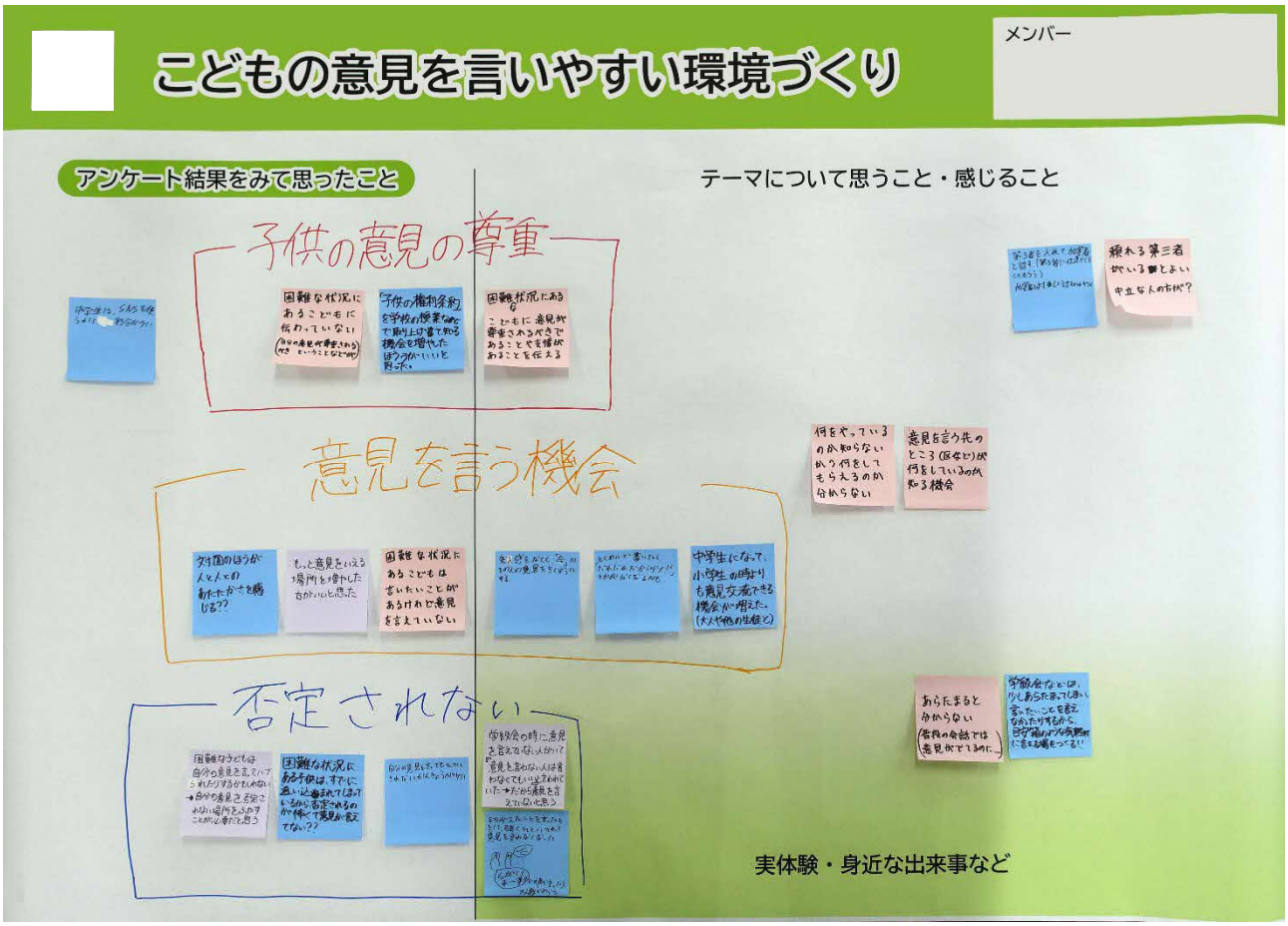
（第３回）提案プロジェクト

①「いつもあなたのそばに ボーダーレスハウス	
【内容】 ・学年を気にせず、安心して利用できる ・勉強・ゲーム・相談など、目的に合わせたそれぞれの部屋があり、無料で利用できる ・ちょっとした売店がある	
自分たちにできること	・意見を出す ・きれいに使う ・知って、友達に知らせる ・インテリアなどを段ボールで作る
品川区にしてほしいこと	・場所を設置してもらう ・掲示板や SNS などで広めてもらう ・インテリアなどを置いてもらう
地域や学校にしてほしいこと	・低学年の遠足で行ってもらう

②「品川クエスト～みんなでゴールを目指せ～」	
【内容】 ・無料または格安で職業体験・留学体験・謎解きなど様々な体験を行える ・区のホールなどで行う ・グループを作り、１つのことに協力して取り組む	
自分たちにできること	・沢山参加する ・広告をつくる ・みんなで仲良くする ・手伝いをする
品川区にしてほしいこと	・体験場所を設けてもらう ・広報をしてもらう ・プロジェクトを考えてもらう
地域や学校にしてほしいこと	・商店街に協力してもらう ・お店にチラシを置いてもらう ・町会に協力してもらう

③「子どもＳＮＳ」	
【内容】 ・子どものみが利用できる SNS ・品川区のタブレットにのみ入れられる ・チャット機能で、コミュニケーションや相談ができる ・暴言を入力することはできない ・深夜の利用制限がある ・地域のイベントなどの広告を流す	
自分たちにできること	・ルールを守って活用する ・子ども SNS の魅力を友達に伝える
品川区にしてほしいこと	・内容やアプリを作ってもらう ・ルールをつくってもらう
地域や学校にしてほしいこと	・学校配布のタブレットにアプリを入れてもらう

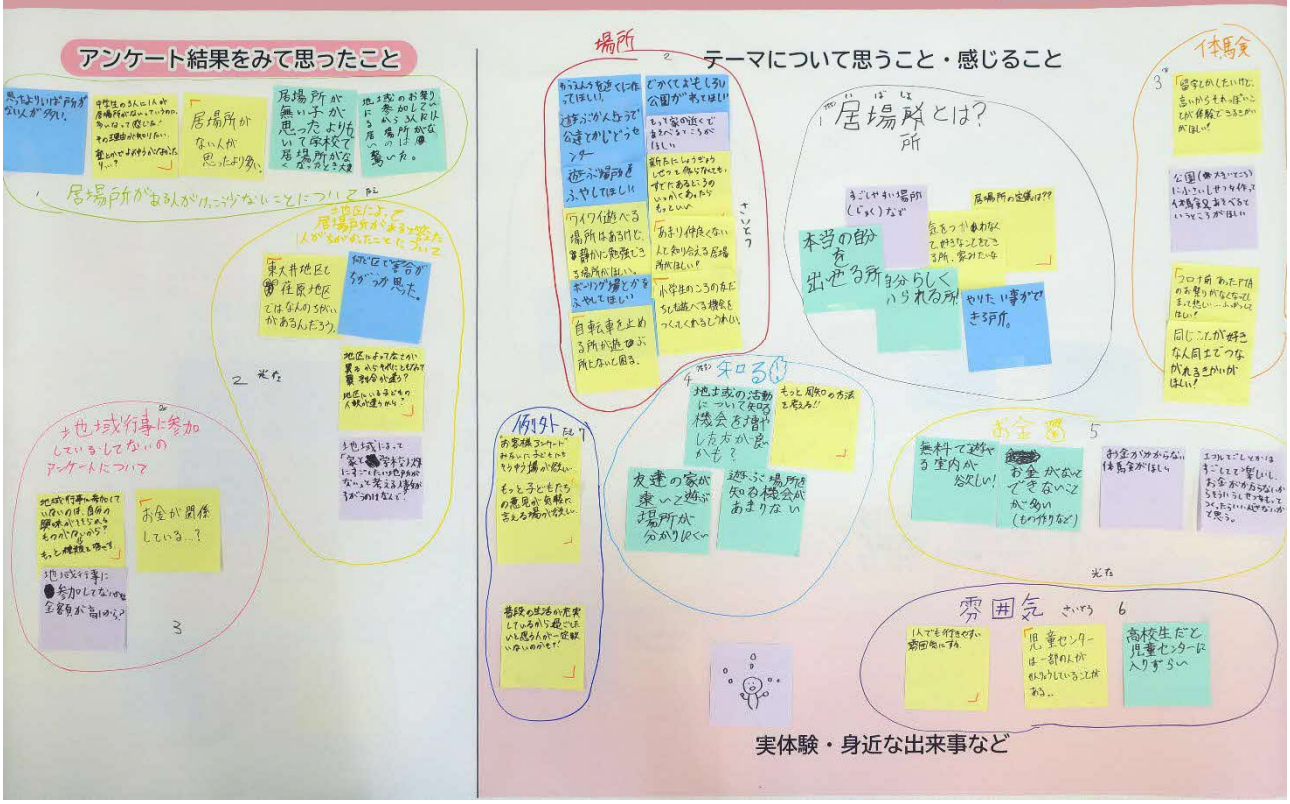
【第１回模造紙】


こどもの意見を言いやすい環境づくり
メンバー
アンケート結果をみて思ったこと
テーマについて思うこと・感じること
子供の意見の尊重
意見を言う機会
否定されない
実体験・身近な出来事など

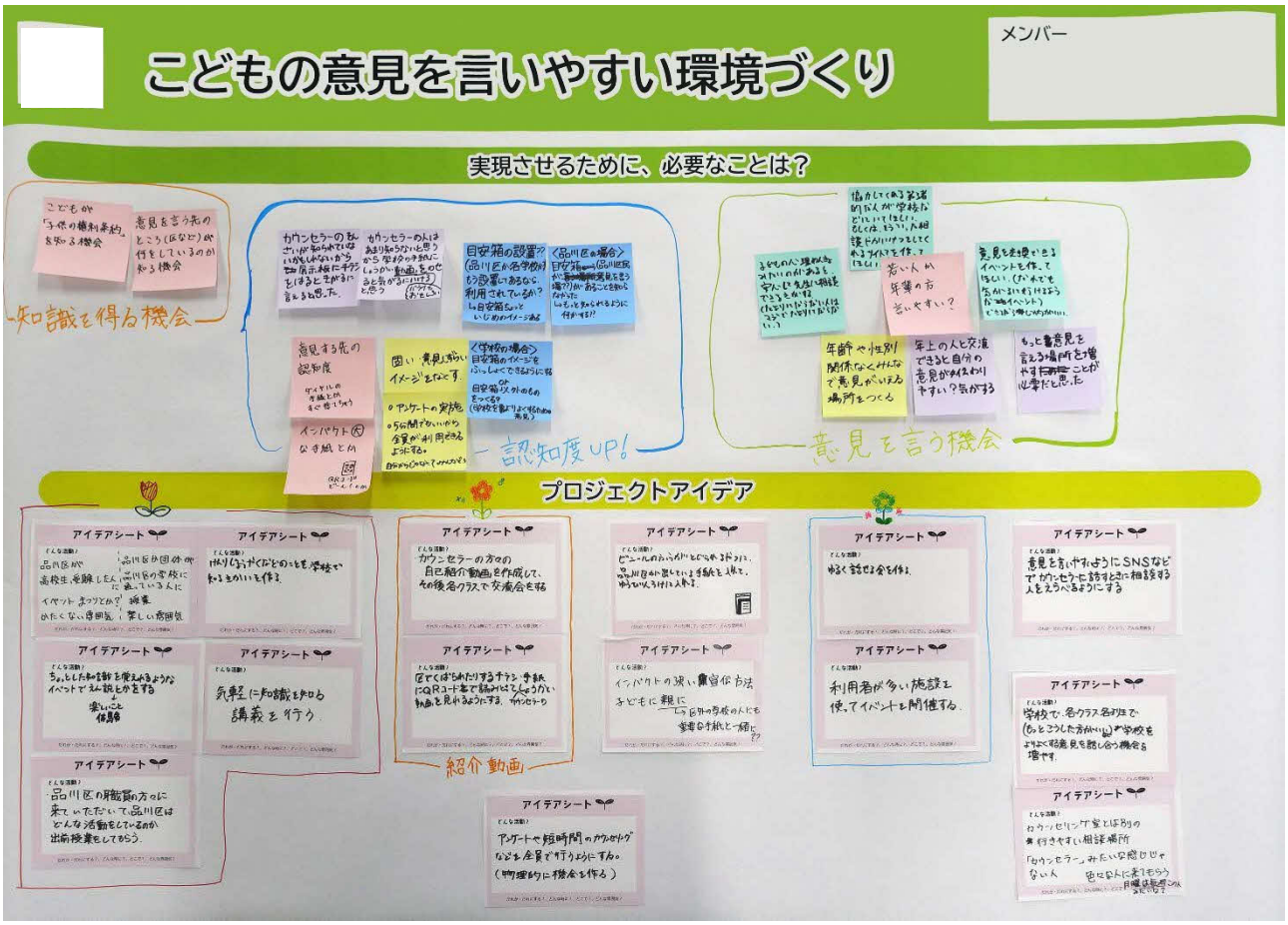
だれも孤独にしない、させないための取り組み
メンバー
アンケート結果をみて思ったこと
テーマについて思うこと・感じること
相談できる対象
困難な状況にある子どもが相談しにくい理由グループ
ストレスに関するグループ
こどく
学校のカウンセラーについて
先生に相談できるか
実体験・身近な出来事など

こどもの居場所や体験活動の機会の充実

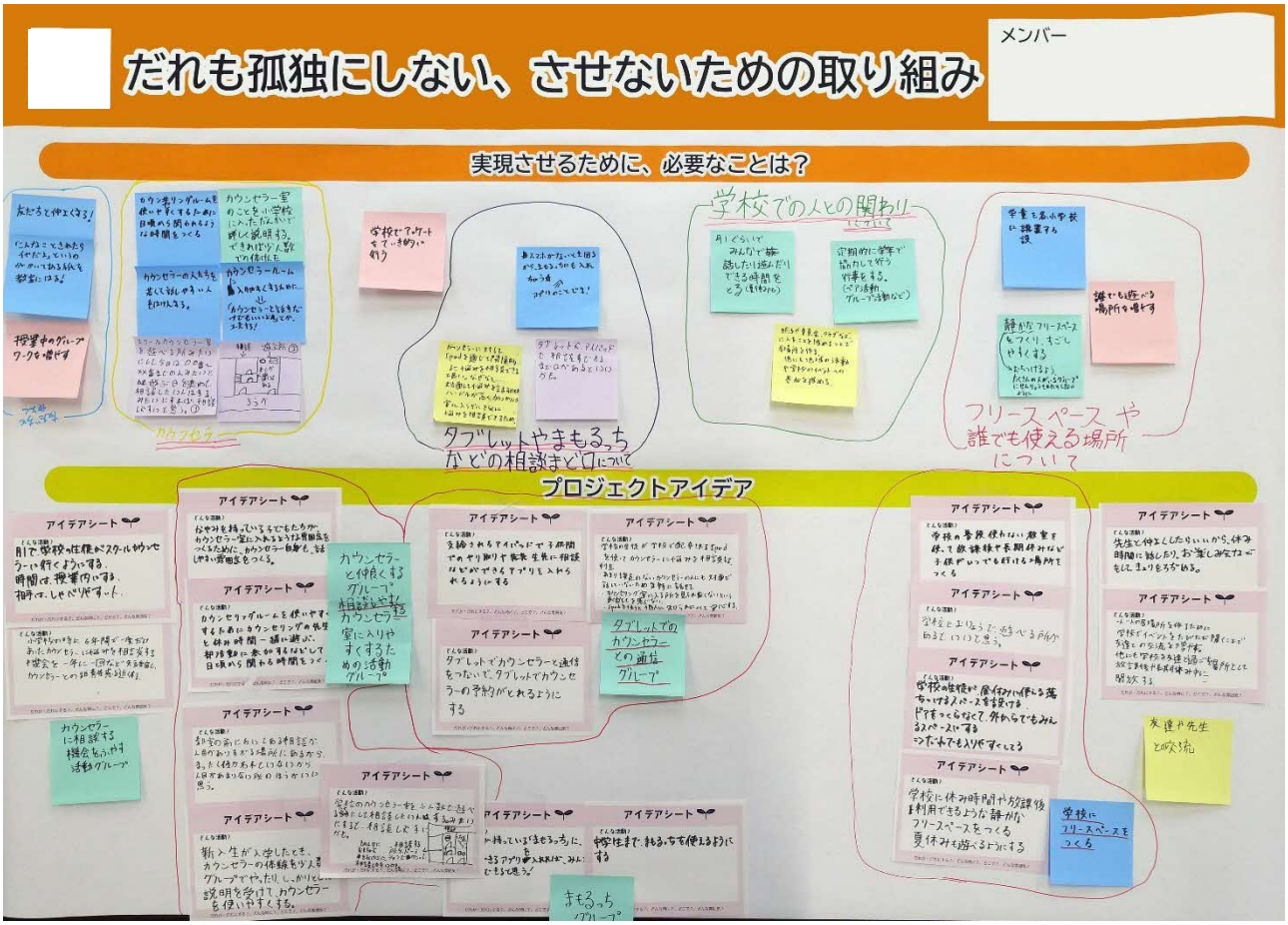
メンバー



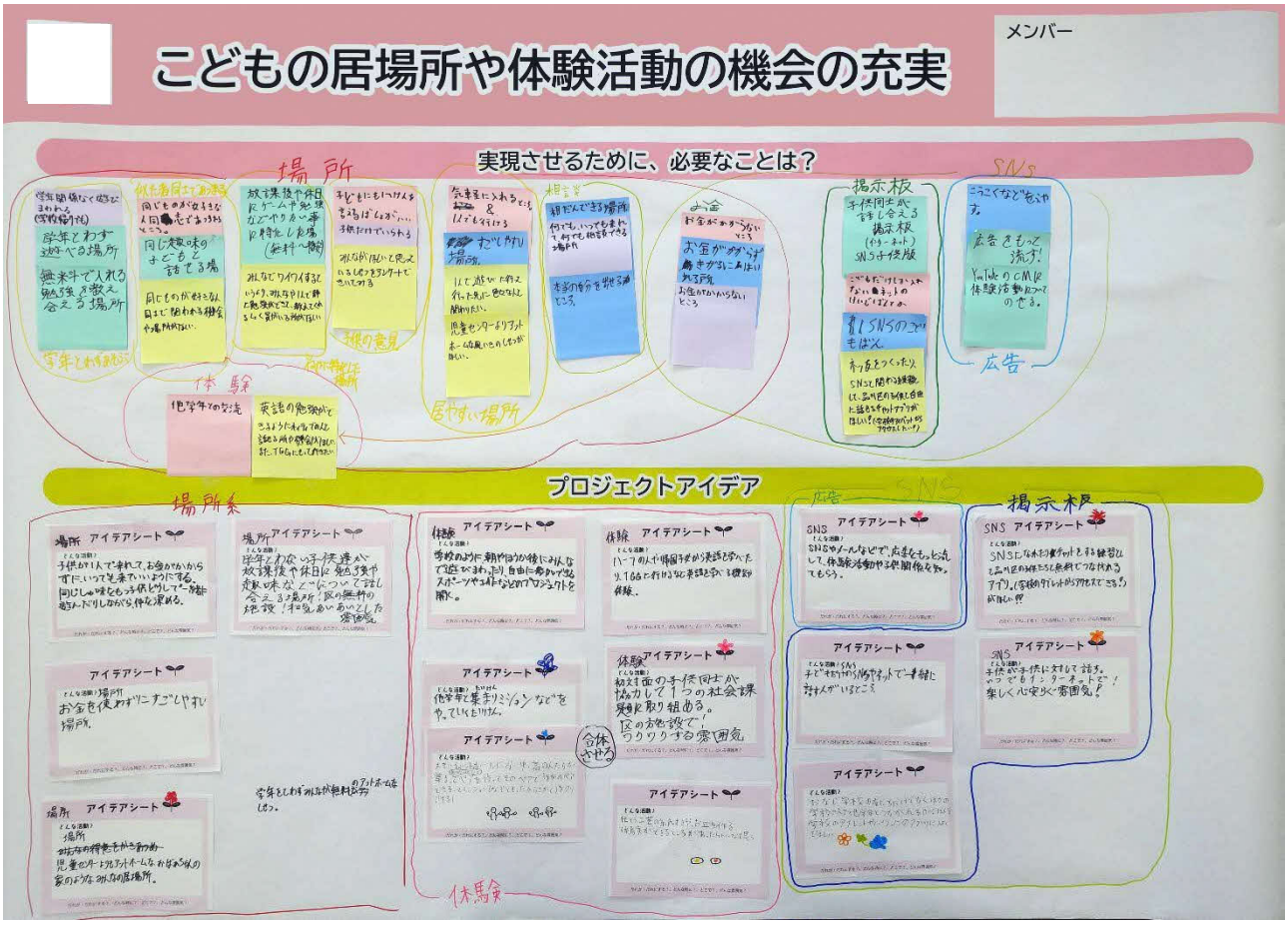
【第２回模造紙】



こどもの意見を言いやすい環境づくり
メンバー
実現させるために、必要なことは？
知識を得る機会
認知度UP!
意見を言う機会
プロジェクトアイデア
アイデアシート
紹介動画



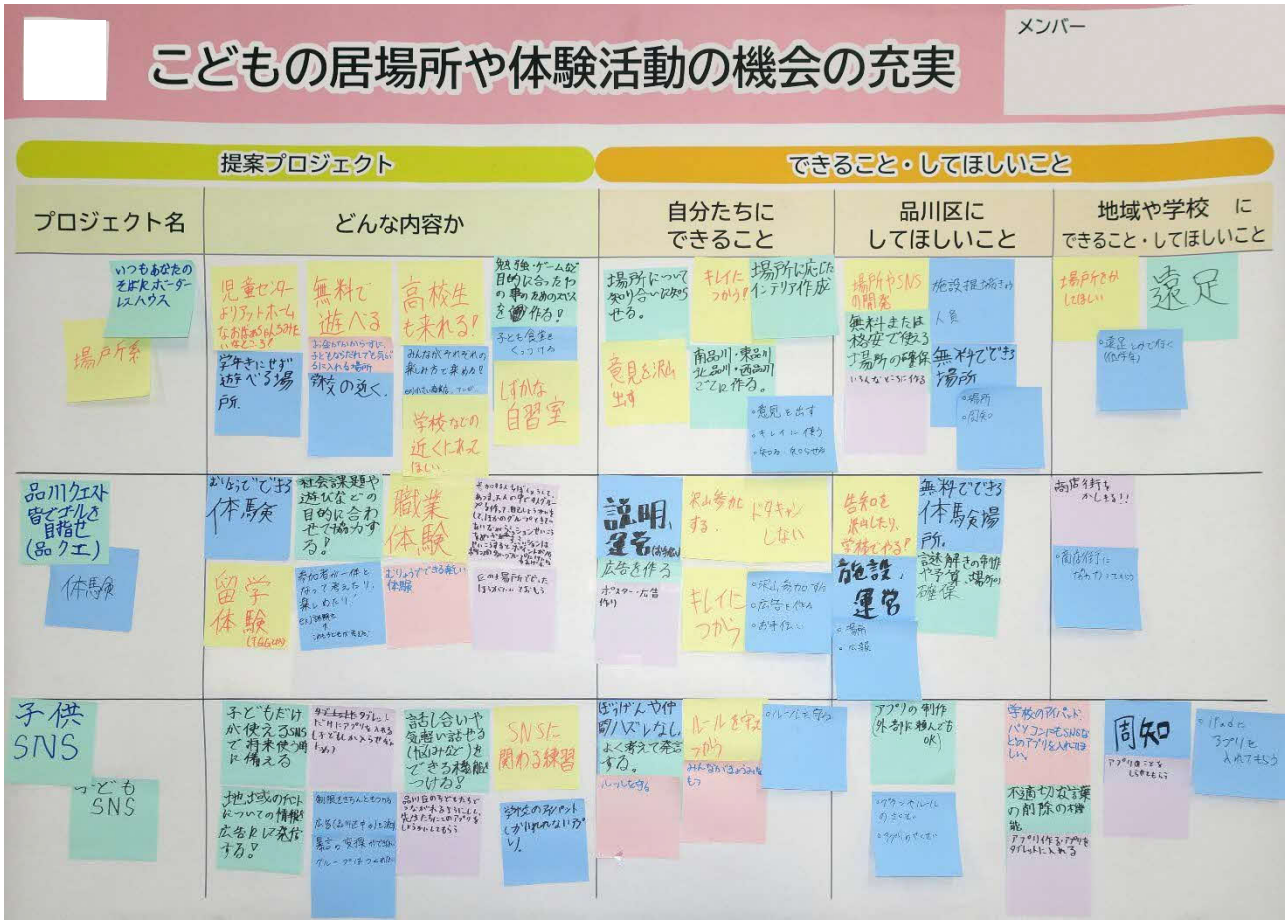
だれも孤独にしない、させないための取り組み
メンバー
実現させるために、必要なことは？
学校での人との関わりについて
タブレットやまもるっちなどの相談まど口について
フリースペースや誰でも使える場所について
プロジェクトアイデア
アイデアシート


こどもの居場所や体験活動の機会の充実
メンバー
実現させるために、必要なことは？
場所
学年と わすれる 遊べる場所
無料で入れる 勉強を教え 合える場所
学年とわすれる
同じ趣味の こどもと 話せる場
同じものが好きな 同士で 話せる場
放課後や休日に ゲームや勉強 などやりたい事 に特化した場 (無料で利用)
オシャレにもこだわりたい 学校だけでいられる
学校の意見
居やすい場所
体験
他学年との交流
英語の勉強が できるようになる 場所 (外国人講師 ALT)
気軽に入れる 場 & 1人でも行ける
子どもだけ 場所。
1人で遊べに行 った時に色々な人と 関われた。
児童センターよりフット ボール広場いるのしかが 欲しい。
相談
相談だけできる場所
何でも、いつでも来れて 何でも相談できる 場所
本当の自分を出せる ところ。
お金
お金がかからない ところ
お金がかからず 楽しく遊ぶ 場所
お金がかからない ところ
掲示板
子供同士が 話し合える 掲示板 (インターネット) SNSを使用
こどもだけでは入れない 掲示板などは 作れないか。
SNSのこと もはメ。
ネット掲示板をつくったり SNSで関わる練習 (ex. 高学年の子が低学年に話かけ子同士でアプリが使いたい (交換ノートのようなアプリ))
SNS
こうこくなどをやる。
広告をもっと 流す!
YouTubeのCMや 体験活動について のせる。
広告
プロジェクトアイデア
場所系
場所 アイデアシート
(こどもの活動) 子供が1人で来れて、お金がかからず 気にいって来ていようにする。 同じしゅみをもつ人がいっぱいで 交流 (ex. 一緒にゲームをする) 遊んだりしながら友達を深める。
場所 アイデアシート
(こどもの活動) 学年とわすれる 子供とわかる 小学生が 放課後や休日に 勉強や 楽しい 趣味など について 話し 合える場所! 区の無料の 施設! オシャレ あかぬけた 雰囲気。
アイデアシート
(こどもの活動) 場所 お金を使わずにたのしめる 場所。
場所 アイデアシート
(こどもの活動) 場所 ・地域の特色をかき集め 児童センター・ストリートフットボール・なんでも屋 (ex. 家のような) 子どもの居場所。
学年をとわず子どもたちが無料で入れる のフリースペース。
体験
体験 アイデアシート
(こどもの活動) 学校のように朝やはるか後にみんなで遊べるように、 自由に参加できる スポーツやゲームなどのプロジェクトを開く。
体験 アイデアシート
(こどもの活動) 1つの小学校子どもが集まって ALTの先生方に英語を習う 機会 体験。
アイデアシート
(こどもの活動) ありがち 他学年と集まりミーティングなどを やっていきたい。
アイデアシート
合体させる
体験 アイデアシート
(こどもの活動) 地域の子供同士が 協力して1つの社会課題に取り組める。 区の施設で! ワクワクする雰囲気
アイデアシート
(こどもの活動) 仲良くなるためにはまず 自分を知ってもらいたい。 (ex. 自分の趣味 ex. 好きなもの)
体験
広告
SNS
SNS アイデアシート
(こどもの活動) SNSやメールなどで、広告をもっと流して、体験活動や学習関係を知ってもらう。
アイデアシート
(こどもの活動) 子どもだけが入れるSNSで 年齢に 対する人がいるところ
掲示板
SNS アイデアシート
(こどもの活動) SNSとなる掲示板とする練習 (ex. 高学年の子どもたちと 無料でつなげれる アプリ。(学校の学びとリンクしてアプリを作ってみる!) 新しい!!
SNS アイデアシート
(こどもの活動) 子供が子供に対して 話る。 ex. ゲーム・インターネットで! 楽しく心安らぐ雰囲気!

【第３回模造紙】

こどもの意見を言いやすい環境づくり
メンバー
提案プロジェクト
できること・してほしいこと
プロジェクト名
どんな内容か
自分たちにできること
品川区にしてほしいこと
地域や学校にできること・してほしいこと
知って作ろう！子ども条例プロジェクト
学校発信 令和版 目安箱プロジェクト
身近な場所で意見を出そう！プロジェクト
学校で
講義は講義でもグループワークの多い楽しいものに
教室でオンライングループワーク
子ども食堂について（場所・内容）
子どもの権利について
子供条例作ってみる
学校発信
アンケートを学校で配信してもらう
Fomesで配信してもらう
アンケート地区別
あて先を書いてそこに届けてもらう
紹介動画の作成
カウンセラーさん
品川区の担当の人
学校の先生など
児童センターなどのみんなが行くところで行う
スマイルスタールでの開催
映えるアンケートBOX
児童センターに目安箱
イベントへの参加とそこで意見を言う
イベントの開催
イベントの宣伝

だれも孤独にしない、させないための取り組み
メンバー
提案プロジェクト
できること・してほしいこと
プロジェクト名
どんな内容か
自分たちにできること
品川区にしてほしいこと
地域や学校にできること・してほしいこと
年に一回くらいカウンセラーの説明を詳しく受ける
カウンセラーの仕事を理解する！
カウンセラーと仲良くできると思うから
説明会などをしてほしい
デジタルに○○を解決しよう!!
タブレットでカウンセリング室の予約がとれるようにする
スタールーム


こどもの居場所や体験活動の機会の充実
メンバー
提案プロジェクト
できること・してほしいこと
プロジェクト名
どんな内容か
自分たちにできること
品川区にしてほしいこと
地域や学校にできること・してほしいこと
場所系
品川クエスト皆でゴルを目指せ(品クエ)
体験
子供SNS
こどもSNS
遠足
周知

【第３回意見書】

こどもの意見を言いやすい環境づくり 意見書

メンバー

提案プロジェクト		できること・してほしいこと		
プロジェクト名	どんな内容か	自分たちにできること	品川区にしてほしいこと	地域や学校 にできること・してほしいこと
知って作ろう！ 子ども条例 プロジェクト	・学校でオンラインで知識を得る ⇩ ・質問(分からなかった部分) ⇩ ・グループワークで子供条例をつくる(主任) ⇒クラスでまとめる⇒学校で意見書作成⇒区へ提出！	・学習意欲をもつ	・子供の権利条例を子供の意見をふまえて成作してもらう!!	・出前授業を各学校にしてもらいたい
学校 発信 令和版 目安箱 プロジェクト	オンラインでアンケートを作ってもらう ⇩ ・定期的に学校で時間をとって、回答してもらう いつでも回答できるようにする	・アンケートを積極的に行い、自分の意見を書く。	・アンケートの作成	・アンケートを実施する時間をしっかり作ってもらいたい。
身近な場所で意見を出そう！ プロジェクト	・児童センター(スマイルスクールなど)で 子供が行きやすく頼れる大人がいる所 子供が意見を言える機会を設ける ・児童センターに目安箱を設置する デコって、目立つようにする	・積極的にイベントに参加する ・目安箱をばえる様に、デコる。	・イベントの開催 イベントの宣伝	・会場に頼れる大人がついておいてほしい。

だれも孤独にしない、させないための取り組み 意見書

メンバー

提案プロジェクト		できること・してほしいこと		
プロジェクト名	どんな内容か	自分たちにできること	品川区にしてほしいこと	地域や学校 にできること・してほしいこと
安心できるカウンセリングルームプロジェクト	①カウンセラーたちが、年に1回ぐらいで説明会をやる。そうすることで、「カウンセラー」という仕事の理解が深まると思います。月に1回ほど、全員カウンセラーに相談する日をつくる。 ②カウンセリングルームで遊んだりしたら、少しは入りやすくなると思います。そうすれば、気軽に使えるし、一石二鳥だと思います。	○勇気を出して相談 ○カウンセラーの仕事を理解する ○カウンセラーと仲良くしてみる	○話しやすい人をはけんしてほしい ○学童のとなりか同じ階にへ生やをつくる	○説明会などをしてほしい ○相談ポストを作ってほしい ○月に一回ぐらい、全員相談できる日がほしい
デジタルで○○を解決しよう	支給されたタブレットを活用し、友達や学校の先生、カウンセラーなどとやり取り・相談できるアプリを開発・導入する	・ルールを守って使用する ・みんなで話し合い使用する中でもとからあるルールを臨機応変に対処する	・友達や学校、カウンセラーの先生とやり取りできるアプリの開発	・タブレットへのアプリ導入 ・学校全体でしっかりとしたルールを決める、説明する ・低学年はトラブルが起きやすいので、高学年からの使用にする ・アプリのダウンロードや使用できる時間帯などある程度制限をかける
だれでも行ける！ スクールーム	長期休み中や、休み時間、放課後などの時間に遊べたり勉強ができたりするフリースペースを学校につくる。	・フリースペースを積極的に活用する ・自分たちで話し合って、ルールをつくる	・フリースペースをみんなに知ってもらうための紹介用紙をつくってほしい ・学校内に、フリースペース用の部屋を確保してほしい	・フリースペースに見守る先生がいてほしい ・定期的に、生徒に、フリースペースについてのアンケートをとってほしい

こどもの居場所や体験活動の機会の充実 意見書

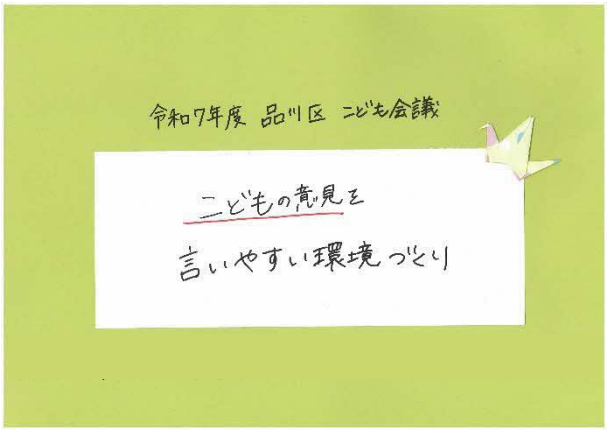
メンバー

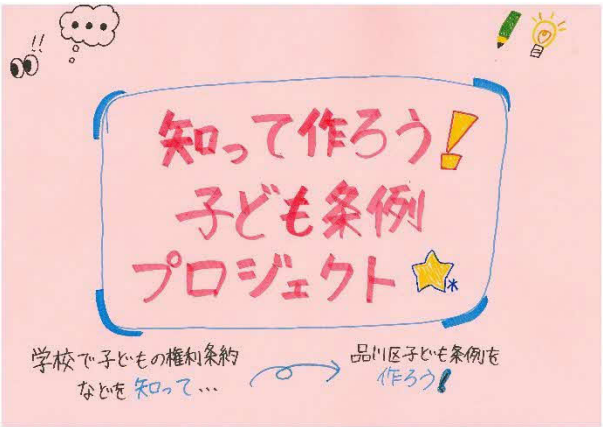
提案プロジェクト		できること・してほしいこと		
プロジェクト名	どんな内容か	自分たちにできること	品川区にしてほしいこと	地域や学校 にできること・してほしいこと
いつもあなたのそばにボーダーレスハウス	・学年を気にせず、安心して利用出来る。 ・勉強・ゲーム・相談など目的に合わせたそれぞれの部屋。 ・無料で利用出来る。 ・ちょっとした売店。	・意見を出す。 ・きれいに使う。 ・知って、友達に知らせる。 ・インテリアなどを段ボールで作る。	・場所を設置してもらう。 ・掲示板やSNSなどで広めてもらう。 ・インテリアなどを置いてもらう。	・低学年の遠足で行ってもらう。
品川クエスト ～みんなでゴールを目指せ～	・職業体験・留学体験・謎解きなど様々な体験を行える。 ・無料または格安。 ・グループを作り、1つの事に協力して取り組む。 ・区のホールなどで行う。	・沢山参加する。 ・みんなで仲良くする。 ・広告をつくる。 ・手伝いをする。	・体験場所を設けてもらう。 ・広報をしてもらう。 ・プロジェクトを考えてもらう。	・商店街に協力してもらう。 ・お店にチラシを置いてもらう。 ・町会に協力してもらう。
子どもSNS	・子供のみが利用できるSNS。 ・品川区のタブレットにのみ入れられる。 ・チャット機能で、コミュニケーションや相談ができる。 ・暴言を入力することはできない。 ・深夜の利用制限。 ・地域のイベントなどの広告を流す。	・ルールを守って活用する。 ・子どもSNSの魅力を友達に伝える。	・内容やアプリを作ってもらう。 ・ルールをつくってもらう。	・学校配布のタブレットにアプリを入れてもらう。

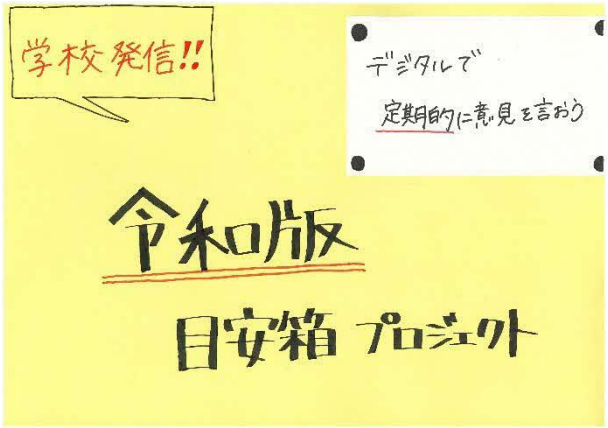
報告会で区長へ手渡しした意見書

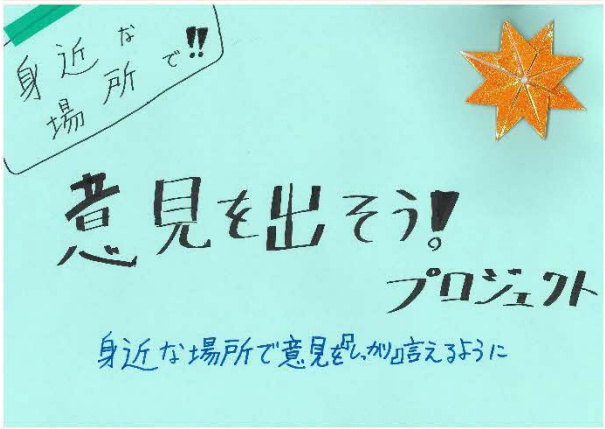
第１回から第３回までの話し合いの内容及び提案プロジェクトを冊子形式にまとめ、表紙と各プロジェクト紹介ページを作成した意見書を作成しました。

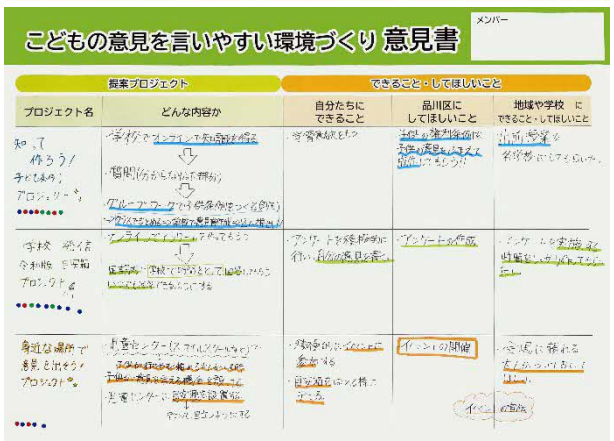
【Ａグループ】こどもの意見を言いやすい環境づくり

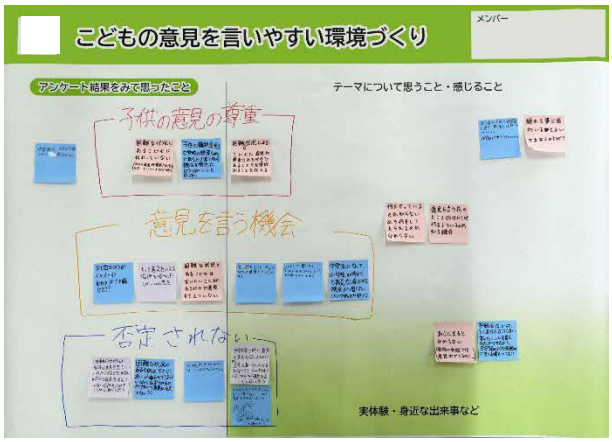


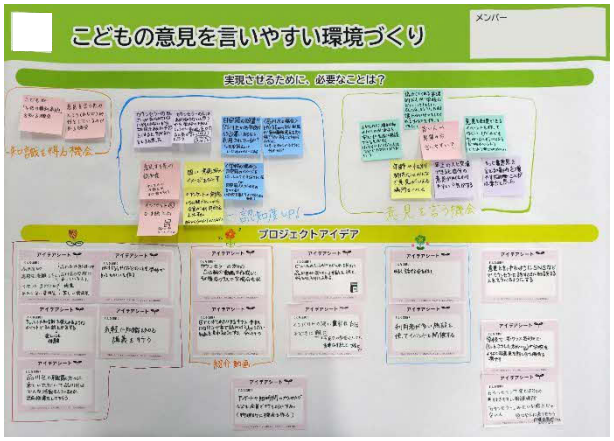




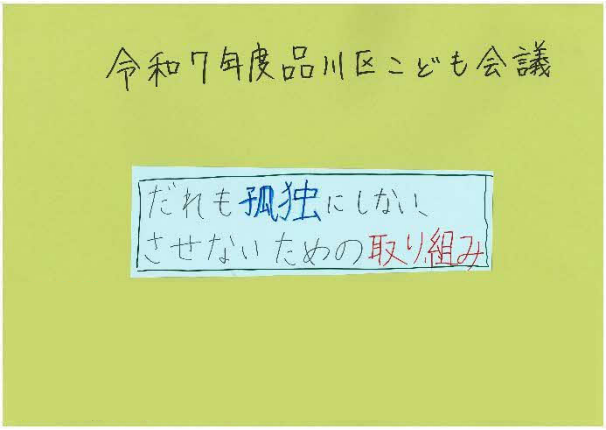


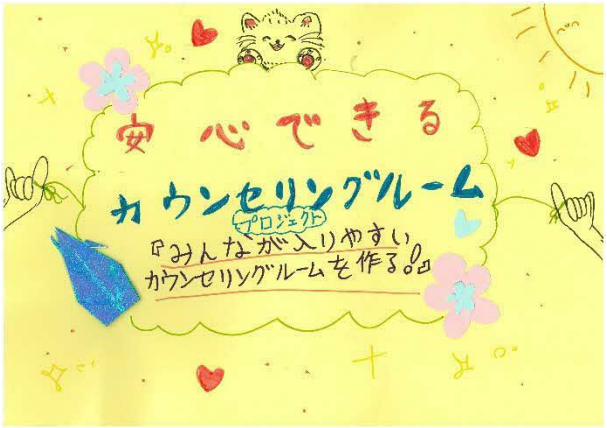


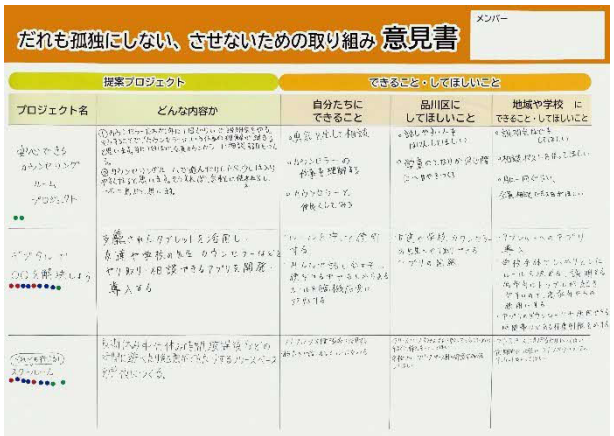


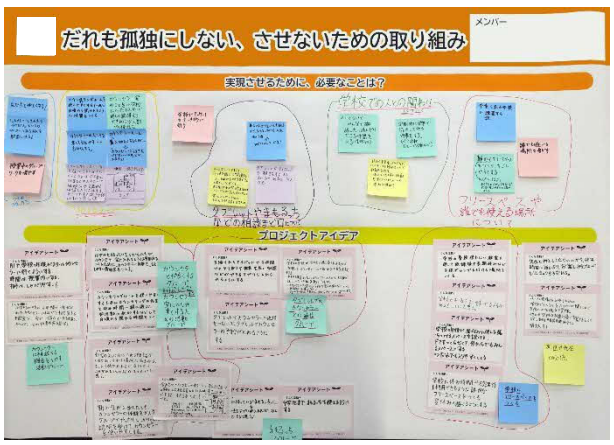


【Ｂグループ】だれも孤独にしない、させないための取り組み

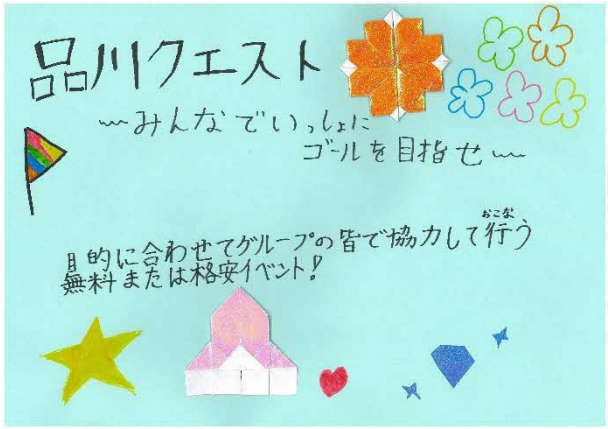


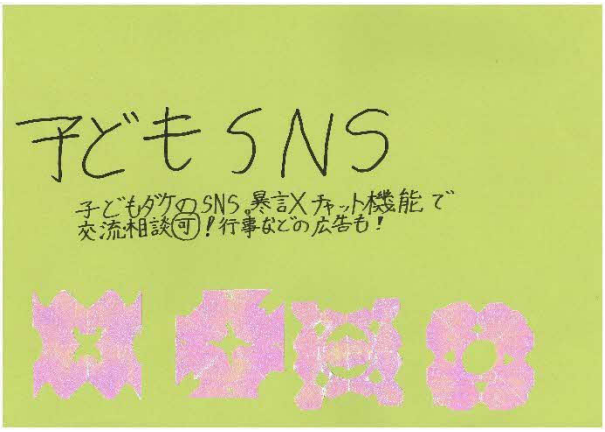


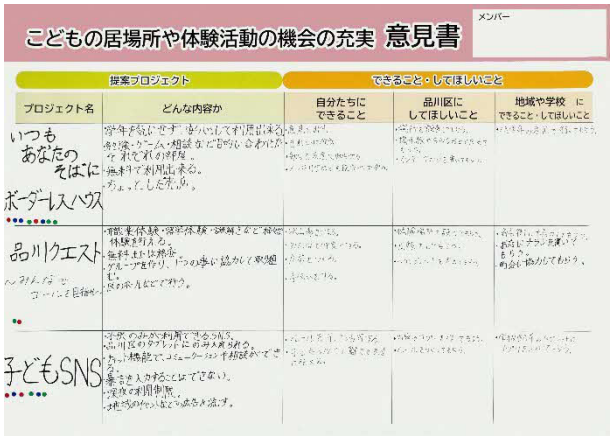


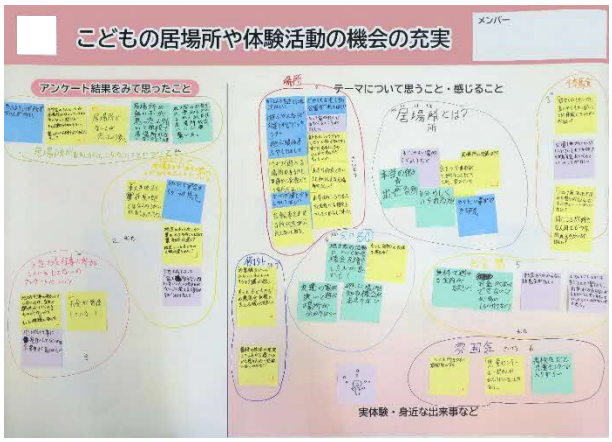


【Cグループ】こどもの居場所や体験活動の機会の充実









報告会の発表内容

【Ａグループ】こどもの意見を言いやすい環境づくり

私たちのグループでは、こどもの意見を言いやすい環境づくりについて、みんなで話し合って、３つのプロジェクトを考えました。

１つ目は、「知って作ろう！　こども条例プロジェクト」です。

◎これは、学校で子どもの権利条約などを知って、品川区こども条例を作るプロジェクトです。

・学校で各教室をオンラインシステムでつなぎ、子どもの権利条約などの知識を学びます。楽しく学べるよう、子どもの権利に詳しい団体などに各学校で出前授業をしてもらいたいです。

・次に、各クラスで班を作って、子ども条例についてグループワークで意見を出し合い、クラスで意見をまとめます。それをもとに、学校で意見書を作って、品川区に提出します。

・品川区には、子どもの意見をふまえた子ども条例を作ってもらえると、うれしいです。

２つ目は、「学校発信！　令和版目安箱プロジェクト」です。

◎これは、学校でデジタルを活用して、定期的に意見を言えるようにするプロジェクトです。

・学校にある目安箱は目立たず、気軽に使いづらいため、オンラインで自由に意見を言えるアンケートを行います。

・学校の時間内で定期的に回答する時間を設けたり、いつでも回答できるようにすることで、誰でも意見を出しやすくします。

・品川区には、意見を伝えたい人に意見が届くアンケートのしくみを作ってもらいたいです。

３つ目は、「身近な場所で意見を出そう！　プロジェクト」です。

◎これは、身近な場所で意見をしっかり言える機会をつくるプロジェクトです。

・子どもが行きやすく、頼れる大人がいる、児童センターやスマイルスクールなどで、子どもが安心して意見を言える機会を設けます。

・子どもたちがデコった「映える目安箱」を児童センターに置くことで、意見を出しやすい雰囲気を作り出します。

・施設に頼れる大人がいると、安心して意見を言えると思います。

・気軽に意見を言えるようなイベントを開催してもらいたいです。

以上でＡグループの発表を終わります。ありがとうございました。

【Ｂグループ】だれも孤独にしない、させないための取り組み

私たちのグループでは、みんなで話し合って、だれも孤独にしない、させないための３つのプロジェクトを考えました。

１つ目は、「安心できるカウンセリングルームプロジェクト」です。

◎このプロジェクトでは、みんなが入りやすいカウンセリングルームを作ります。

・カウンセラーさん達が、年に１回説明会をしたり、子ども達全員が相談できる機会を月に１回つくります。

・カウンセリングルームで遊べるようにして、みんなが入りやすいカウンセリングルームをつくります。

・品川区や学校には、子どもが話しやすい人をカウンセラーにしたり、誰にも知られず相談できるように、相談ポストをつくったりしてほしいです。

２つ目は、「デジタルで〇〇を解決しよう！」プロジェクトです。

◎これは、デジタルでさみしさや悩みを解決しようというプロジェクトです。

・「〇〇」は、さみしさや悩みなど、一人ひとりが抱えている感情を表しています。

・タブレットの中に、友達とつながれるアプリや、カウンセリングルームを予約できるアプリを入れて、さみしさや悩みを解決します。

・品川区や学校にしてほしいことは３つあります。

・１つ目は、アプリの開発です。

・２つ目は、アプリが使用できる時間帯に制限をかけること。

・３つ目は、アプリのルールを子ども達も一緒に考えられるようにしてほしいです。

３つ目は、「だれでも行ける！　スクールーム」プロジェクトです。

◎これは、長期休暇中や休み時間、放課後などの時間に遊んだり、勉強したりできるフリースペースを学校に作るプロジェクトです。

・子どもが自分たちでルールを考えて、積極的に利用できる場所にします。

・品川区や学校にしてほしいことは、３つあります。

・１つ目は、フリースペースをみんなに知ってもらうための紹介をしてほしいです。

・２つ目は、フリースペースを見守ってくれる先生がいてほしいです。

・３つ目は、子どもたちに、フリースペースについてのアンケートを定期的にとってほしいです。

以上でＢグループの発表を終わります。ありがとうございました。

【Ｃグループ】こどもの居場所や体験活動の機会の充実

私たちのグループでは、こどもの居場所や体験活動の機会について、みんなで話し合って、３つのプロジェクトを考えました。

１つ目は、「いつもあなたのそばに　ボーダーレスハウス」です。
◎目的に合わせたそれぞれの部屋で学年を気にせず安心して利用できる！
・学年を気にせず、無料で安心して利用できます。
・勉強・ゲーム、相談など、目的に応じたそれぞれの部屋があります。
・ちょっとした売店もあり、友だちとお菓子を食べて話すこともできます。
・児童センターは高校生が入りにくい雰囲気があります。
・幅広い年代の子どもが気軽に集まり、勉強を教えたり相談できたりします。
・このような場所が身近にあり、誰もが場所を知っているようになるとよいです。

２つ目は、「品川クエスト～みんなでゴールを目指せ～」です。
◎目的に合わせてグループの皆で協力して行う無料または格安イベント！
・職業体験など、いろいろなことが体験できる機会を作ってほしいです。
・社会課題の解決などを、グループで競い合いながら考えてもよいと思います。
・知らない人同士がグループを作り、いろいろなミッションをクリアしていきます。
・人と協力して、達成する力をつけることにもつながります。
・無料や安いお金で行うことで、誰でも気軽に参加できます。
・区の施設で行ったり、商店街に協力してもらえるとよいです。

３つ目は、「子ども SNS」です。
◎子どもだけの SNS。暴言×。チャット機能で交流、相談。行事等の広告も！
・最近、身近に SNS が利用できるようになっていますが、様々な危険もあります。
・子どもだけが使うことができる SNS を作るのはどうでしょうか。
・品川区の子どもだけが使えるようにして、安心して発言できるようにします。
・チャット機能で交流や相談ができ、子どもに関するイベントの周知にも使います。
・子どもたちは、利用時間を決めるなど、自分たちでルールを守って使います。
・一般の SNS を使う前の練習になります。暴言などはできない機能をつけます。

以上でＣグループの発表を終わります。ありがとうございました。

Ⅳ．参加者アンケート

第３回こども会議終了後に、会議の成果や参加者の意見・感想を把握するとともに、次回以降のこども会議の企画・運営の参考とするため、参加者へアンケートを実施しました。

質問１．こども会議に参加して良かったですか（満足しましたか）？

選択肢	件数
とても良かった	14
まあまあ良かった	2
あまり良くなかった	-
まったく良くなかった	-

質問２．こども会議で自分の意見は言えましたか？

選択肢	件数
とてもよく言えた	11
まあまあ言えた	5
あまり言えなかった	-
まったく言えなかった	-

質問３．こども会議への参加時期について、希望する形はどれですか？

選択肢	件数
今回のように夏休みなど長期休暇にまとめて参加したい	11
年間を通じて定期的に参加したい	4
その他	1

（その他等に書かれていた内容）

・時間があれば来たいです（小学生）

・日付がバラバラだと日にちが分かりづらいから曜日をそろえたりしてほしい（中学生）

質問４．こども会議のメンバー構成について、どう思いますか？

選択肢	件数
もっと幅広い年齢で話したい	2
今回くらいの年齢のメンバーでよい	13
もっと自分に近い年齢の人と話したい	1

質問５．品川区をもっと良くするために、こども会議でどんなことについて話したいですか？
（自由に書いてください）

〈学校に関すること〉

・品川区にある各小中高等学校で案を取り、たくさんの人が問題だと感じていること（高校生）
・もう少し学校について話せるといいなと思う（高校生）

〈こどもの権利に関すること〉

・子どもたちがもっと意見を言えるようにする（小学生）
・みんな（こども）が安心していられる場所（小学生）
・友達との間で悩み事があるかどうかや、どんなことで悩んでるか（中学生）
・今回と同じ、子どもの居場所など（小学生）

〈暮らしに関すること〉

・社会課題について、勉強について、医療について（高校生）
・学校の生活の勤務、労働、仕事を減らしたい。たばこについて（喫煙所とか）（中学生）
・自分たちが考えられるまちづくりについて（無記名）

〈その他〉

・もっと具体的な内容について話したい。もう少し長い期間で最後の方まで自分たちでやりとげたい（中学生）
・イベント（おまつり）について！計画も実行もできると楽しそう！（中学生）

質問６．来年度もこども会議に参加したいですか？

選択肢	件数
予定が合えば参加したい	14
参加したくない	-
分からない	2

質問７．こども会議への感想を記載してください。（自由に書いてください）

〈参加者同士の交流や意見交換について〉

・今回参加して自分の意見を言う機会はなかなかない中で自分の意見が言えてよかったと思う。また、小学校の子の意見や自分と年齢が違う人との意見交換が出来る場所がなかなかないと思うのでより増えていくといいのかなと思いました。とても貴重な機会をありがとうございました（高校生）
・様々な年齢の人たちと話せて、とても刺激を受けました。思ったよりもカジュアルに話せて楽しかった（中学生）
・想像していたよりグループの人とたくさん意見を出し合えてとても楽しかったです（中学生）
・年上の先輩の方（すごい年がはなれていてびっくりした）けどみんな意見を受け入れてくれたし、テーマについてもちゃんとたくさん案が出てよかったです（小学生）
・同じ年齢であると意見が偏りやすいイメージがあるので幅広い年齢の人と話し合い、自分にはなかった新しい提案が得られた。同じテーマに興味がある人が集まったため学校で話し合うのとは違う機会を体験することができてよかった（高校生）

・こうやって、今の現状と課題について子どもたちで話し合うことで”こういう子たちもいるんだ”とか感じたり、解決するために色々考えることでより良い地域にできるようになるな…と思った。（中学生）
・今まで会ったことがない年上の人と関われて楽しかったです。上手く発表できるととてもうれしかったです。プロジェクトでいいものが思いついたときはとても気持ち良かったです。楽しかったのでまたやりたいと思いました（小学生）
・小学生・中学生の子達と交流できて良かったです！新たな気づきを得られました！（中学生）
・今回、みんなが誘導してくれて、たくさん意見を言うことができました。これでもっと品川区を良くしたいです（小学生）
・自分が感じる”もっといいな”を思う存分伝えられてよかった。とても有意義な時間を過ごせたと思う（中学生）
・いろいろな事を知れたし、「こうなったらいいな」というのが、意見書に込められてうれしかったし、楽しかったです（無記名）

〈会議の雰囲気について〉

・想像以上に緩い感じで楽しかった！もっと日付を増やしてもよさそう（中学生）
・楽しかったです（小学生）
・楽しかったです（中学生）
・楽しかった！！（無記名）

令和7年度品川区こども会議実施報告書

発行年月　令和７年12月

発行　品川区

編集　品川区 子ども未来部 子ども育成課
〒140-8715 品川区広町2-1-36
電話 03-5742-6720